

パフォーマンスが上がる職場とは

島田 くみこ(高知工科大学 学生支援部就職支援課 課長)

浜田 昌代(高知大学 広報・校友課 課長)

高木 佳代子(愛媛大学総務部広報課 課長)

坂本 規孝(広島市立大学 教育基盤センター 特任講師)

講師略歴

【島田 くみこ】高知工科大学(現 高知県公立大学法人高知工科大学)に入職後、入試・広報関係、学生支援関係を経て高知県への派遣勤務後、法人本部総務企画課長、同法人高知県立大学教務・学生支援課長を経て2025年4月から現職。東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース修士課程修了。修士(教育学)。日本高等教育学会所属。SPOD-SDCとして、法人内、他機関において研修を行っている。IDE 現代の高等教育2017年6月号「大学職員の人材マネジメントに関する調査結果」を執筆。職員の能力開発、職場環境について関心が高い。

【浜田 昌代】高知大学事務職員採用。これまで、高知大学及び大学改革支援・学位授与機構で勤務。高知大学では総務課、会計課、IR・評価室、人事部門では人事管理業務、研究推進部門では研究力強化に向けた企画、支援業務を担当。2025年4月から現職。2012～2013年度SPOD次世代リーダー養成研修受講・修了。2022年2月SPOD-SDC資格認定。

【高木 佳代子】民間企業勤務を経て、1996年愛媛大学採用。医学部秘書業務、情報関係、共済組合関係、教務関係、就業環境関係業務を経て、2025年4月から現職。

SPOD-SDC、教職員能力発掘点 SDC、産業カウンセラー、国家資格キャリアコンサルタント。

【坂本 規孝】2006年4月、学校法人立命館に専任事務職員として入職。立命館大学、立命館アジア太平洋大学、法人本部において、教学、留学生入学、新キャンパス開設、新学部設置、役員秘書等を担当。愛媛大学を経て、2024年4月から現職。SDC(SDコーディネータ)、SPOD-SDC。修士(教育学)、修士(芸術学)。多国籍な職場や役員秘書などの経験に加え、職員から教員に転身して見える景色を踏まえて、職員や教職協働といった職場環境にも関心が高い。

プログラム概要

「パフォーマンスが上がる職場で働きたい」と思いますか？多くの人が「はい」と答えるでしょう。

では、「パフォーマンスが上がる職場を自分でつくりたい」と思いますか？こちらには少し躊躇する人もいるかもしれません。

このプログラムでは、SPOD-SDC(SD コーディネーター)の認定を受けた講師陣のサポートの下、参加者一人ひとりが自分の立場でできることを考え、実践への一歩を踏み出すことを目指します。

午前は、「パフォーマンスが上がる職場」とはどのようなものか、逆に「下がる職場」では何が起こっているのかを考え、良い職場環境、風通しの良い職場の具体的なイメージを描きます。午後は、パフォーマンスが上がる職場をつくるためにそれぞれの立場で実際にできることを考えます。講義、個人ワーク、グループワークを通して、パフォーマンスが上がる職場をつくるためのアイデアや自分にもできることがあるという気づきを得ることができます。

準備物・事前課題

パフォーマンスが上がる職場や下がる職場について、その原因や理由を考えてください。考えた内容は、当日のワークで発表していただきます。

主な受講対象者

・組織の一つのまとまりである「課」などを対象として、パフォーマンスが上がる職場をつくりたい教職員

到達目標

1. パフォーマンスが上がる職場とは何かを説明できる。
2. パフォーマンスが上がる職場が必要となる理由を説明できる。
3. パフォーマンスが上がる職場・下がる職場について、そのようになる要因を見立てることができる。
4. パフォーマンスが上がる職場をつくるために、自分がとれるアクションを提案できる。